

令和3年度 大田区立大森第一中学校 自己評価 報告書

令和4年3月1日

○ 本校の概要

◆教育目標 「共感・納得・理解できる指導」を基盤として、生徒・保護者や地域の信託に応える教育活動を推進し、公教育の使命を果たすため、以下の目標を掲げる。
 ・きまりを守り、責任を果たす人になろう ・自ら進んでよく学びよく働く人になろう ・心身ともに健康で情豊かな人になろう ・互いに尊重しあい思いやりのある人になろう

◆生徒数 全校生徒227名(1年:77名、2年70名、3年80名) ◆教員数 16名
 ◆学級数 7学級(1年:3学級、2年:2学級、3年:2学級)

◆特色ある教育活動 全校道徳、カサゴ稚魚放流、池上自動車学校と連携した自転車安全教室、ツーウェイコミュニケーション、学習新聞作り、ボランティア活動

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組 今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|--------------------------|--|--|---|------|---|-------------|--|----------|----|--|
| | | | | | | | | 評価 | 人数 | |
| プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にかなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | ○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 | 4: 80%以上 | 【アンケート回収率 生徒:93% 保護者:70%】 1. 外国語教育指導員を活用しながら、引き続きオールイングリッシュの授業進行により、英語によるコミュニケーション能力の育成に取り組んでいく。 2. 1月の校内展示会や区のものづくりフォーラムに向けて、美術・技術・家庭での作品作りや各学年の体験学習をまとめた新聞を作り継続していく。 3. 研修等により教員のICT機器活用能力を高め、学習用タブレットの活用により生徒の学ぶ意欲を高める授業の実践をおこなっていく。 4. 道徳授業地区公開講座をきっかけとして、日常生活や身近な出来事に結びついた人権問題について、生徒、保護者ともに考える機会を作っていく。 5. 小学校と連携した「体力向上全体計画」にもとづき、授業開始時のランニングと脳力強化の補強運動を継続し、基礎体力の向上を図っていく。 | A | 5 | ・特別活動に対する生徒の評価が高いことが分かりました。社会に対応していくためのコミュニケーション力や相手の気持ちを考えられる力は、学年を越えた交流で多くが身につくことだと思います。大森東地域から社会で活躍される生徒さんがたくさんいらっしゃることを、大変うれしく心強いです。 |
| | | 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 4 | ・教員は、評価・評定の方法を生徒に十分説明している。 | 3: 60%以上 | | B | 3 | ・コロナ禍の下での学習指導は難しいものがあると思う。英語力の強化、オールイングリッシュの授業は英語力がつくと思う。作品作りや新聞作りは、発想力、それを形にしていける力、発言力の向上になると思う。 |
| | | 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 | 4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。 | 2 | ・生徒は地域の一人として自覚をもち、地域の活動に貢献している。 | 2: 60%未満 | | C | | ・学校評価アンケート結果から、分かりやすい授業や学力向上について保護者の評価が伸び悩んでおり、引き続きの課題であると分析されています。授業改善を、さらに見える形で進められるとよいのではと思います。 |
| | | 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 | 4 | 85.7% | 1: 40%未満 | | D | | ・色々体験し日々の生活が目に見える様です。 |
| プラン2 学力の向上 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。 | 4 | ○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 | 4: 80%以上 | 1. 定期調査や学習効果測定の結果をまとめた学習カルテをもとに、具体的な学習方法が考えられるよう、三者面談などの機会に指導をおこなった。 2. 自分が分からないところを確認することで効率的に学習を進めたり、到達度を活用したりすることで、習熟度別少人数指導を有効に進めていく。 3. 主に英語と数学で「平日の火・木の放課後」「年間6回の土曜日」「夏季休業中の5日間」をおこなっているが、放課後補習への参加者を増やしていきたい。 4. 「小中一貫教育の会」を機会に、大田区学習効果測定の結果について小学校と共有し、各校で作成した授業改善推進プランを生かし授業をおこなった。 | A | 4 | ・学力定着のために少人数指導や補習などを実施されていることが分かります。学力の向上についてのアンケートで、生徒、保護者ともに評価が低いことが気になりました。 |
| | | 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 | 4:学期に2~3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。 | 2 | ・教員は、「わかりやすい授業を行うために指導方法を工夫・改善している。 | 3: 60%以上 | | B | 4 | ・学校評価アンケート結果から、分かりやすい授業や学力向上について保護者の評価が伸び悩んでおり、引き続きの課題であると分析されています。授業改善を、さらに見える形で進められるとよいのではと思います。 |
| | | 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 | 4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 | 4 | ・教員は、評価・評定を適正に行っている。 | 2: 60%未満 | | C | | ・自分の生き甲斐や生き方を学べると良いですね。 |
| | | 授業改善推進プランを、授業に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 89.6% | 1: 40%未満 | | D | | |
| プラン3 豊かな心の育成 | 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。 | 小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 | 4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。 | 4 | ○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 | 4: 80%以上 | 1. 小学校で身についた「きまり」を生かしながら、中学生としての自覚を持たせ、学校生活におけるルールや決まりの重要性を理解させ、守ろうとする意識を高めていく。 2. 道徳授業地区公開講座をきっかけとして、日常生活や身近な出来事に結びついた人権問題について、生徒、保護者ともに考える機会を作っていく。 3. 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果を分析し、対応が必要な生徒がいればスクールカウンセラーにつなげるなど、組織的な対応を行った。 4. 教員は休み時間も生徒に寄り添い、声かけや行動観察を行っている。各種アンケート調査や相談週間を活用し、いじめの未然防止と早期発見に努めた。 5. 不登校については、学校への登校にこだわらず、外部機関とつながることにより生徒の学習機会を確保することのできたケースが増加した。 | A | 5 | ・アンケートの結果からも、学校が特に生活指導に力を入れていることが分かります。先生が生徒との間の距離を縮めるための働きかけをされており、生徒が先生に相談しやすい環境となっていることが伺えました。 |
| | | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 2 | ・学校は、いじめや暴力のない学校づくりに積極的に取り組んでいる。 | 3: 60%以上 | | B | 3 | ・規範意識を高めることは、今後の社会生活を送る上で、最も重要だと思ふ。表面に表れないいじめなどへの対応をきちんとしてもらいたい。 |
| | | 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | ・教員は、生徒を理解して相談や悩みについて親身に対応している。 | 2: 60%未満 | | C | | ・学校評価アンケートの生活指導関係の結果から、生徒、保護者共に、肯定的な数値が高いです。素晴らしい実践をされていることがわかります。 |
| | | 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 | 4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 4 | 90.1% | 1: 40%未満 | | D | | ・自分の弱点や問題点等を見付け出し見付け出し自分自身で見出す方法、例えばk法を使用し自分の偏りを見出し修正する等。 |
| プラン4 健康の増進 | スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | ○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 | 4: 80%以上 | 1. 望ましい生活習慣が、健康維持や学習効率に結びつくことを啓発するため、「早寝・早起き・朝ごはん」月間の資料配付や朝礼、学活での講話を継続していく。 2. 給食だけでなく、季節メニューや食産地に関する情報提供とあわせて、栄養に関する知識などを紹介しながら、バランス良く食べる大切さを伝えた。 3. 小学校と連携した「体力向上全体計画」にもとづき、授業開始時のランニングと脳力強化の補強運動を継続し、基礎体力の向上を図っていく。 | A | 3 | ・体力の向上に欠かすことのできない食習慣、生活習慣の大切さを同時に取り組まれていることが分かります。コロナ禍のため、気兼ねせず思いきり体を動かせる状況にないことが、子どもたちにどう影響していくのか心配です。 |
| | | 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 4 | ・学校行事は楽しく充実している。 ・保護者は、生徒のよいところや改善すべきところを理解している。 | 3: 60%以上 | | B | 5 | ・中学生になると、どうしても夜型の生活になってしまうのか。成長期なので、バランスのよい食生活を送ってほしい。 |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。 | 3 | 90.6% | 1: 40%未満 | | D | | ・「取組評価」と「成果評価」が少し乖離していました。 |
| | | 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | | 1: 40%未満 | | D | | |
| プラン5 魅力ある教育環境づくり | 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。 | 授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | ○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 | 4: 80%以上 | 1. 授業公開日のアンケートはすぐに集約し、ご意見はまとめて全教員にフィードバックすることで、授業改善につなげていきたい。 2. オンライン開催となった授業改善セミナーの研修結果を生かし、日常の授業において、主任教諭が中心となり指導・助言をおこなった。 3. 区内小中学校の研究発表会に必ず参加することで、異なる校種や教科の研究成果を、教員の授業改善に生かしていきたい。 4. 特別支援教室開設2年目となり、毎週実施する校内委員会、指導にあたる巡回教員と学級担任で、情報共有と共通理解をおこなっている。 | A | 4 | ・授業の分かりやすさや指導方法の工夫の点で、実際に授業を受けている生徒の評価が高いという結果(そう思う、ややそう思うを合わせて9割程度)があります。先生方の努力、意識の高さを伺うことができます。 |
| | | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4:学期に2~3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 2 | ・学校は、環境美化に積極的に取り組んでいる。 | 3: 60%以上 | | B | 4 | ・全教員が同じ情報を共有することで、同じ方向を向いて指導できるのがよいことだ。研究発表会に参加することで、異なった取り組み方を学び、生かしていけるのがよいことだ。 |
| | | 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 | 3 | 85.5% | 2: 60%未満 | | C | | ・感染拡大の中、生徒の安心、安全を一番考えていただいている。 |
| | | 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。 | 4:月1回以上行った。 3:学期に2~3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 3 | | 1: 40%未満 | | D | | ・「取組評価」と「成果評価」が少し乖離していました。 |
| プラン6 地域と連携 | 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 | 2 | ○教員や生徒・保護者へのアンケートの回答 以下の設問への肯定的な回答の割合 | 4: 80%以上 | 1. ホームページでは、学校経営方針などの基本情報や学校だよりを発信し、緊急の事案については、学校緊急連絡システムによるメール配信をおこなった。 2. 地域教育連絡協議会では、スライド資料を交えた学校生活の紹介や、音楽祭に参加したくことにより、生徒の活動の様子をお伝えした。 3. 遊漁船組合の協力によるカサゴの稚魚放流は、感染拡大の影響をおこなえなかったが、地域の企業・店舗の協力により、職場体験は実施することができた。 | A | 4 | ・コロナ禍にありながら、地域連絡協議会のみならず、運動会や音楽祭など行事にもお声がけいただき、学校、家庭、地域の方々と交流させていただき、地域に開かれた学校であることを実感しております。 |
| | | 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 | 4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。 | 3 | ・生徒は、学校からの各種便利やお知らせなどの配布物を保護者に見せている。 | 3: 60%以上 | | B | 4 | ・カサゴの稚魚放流やコアジサン営業地の整備などは、地域の特色を生かし、生態系を考慮させる一助となるので、コロナ禍で地域行事もすべてなくなり、地域との連携ができなくて残念だ。 |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4:学期に2~3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。 | 2 | ・学校は、地域力(保護者以外)を生徒の教育活動に活かしている。 | 2: 60%未満 | | C | | ・コロナで連携が取りにくい状況である。 |
| | | 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 | 4:月1回以上更新した。 3:学期に2~3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。 | 2 | 71.6% | 1: 40%未満 | | D | | ・地域教育連絡協議会では、先生方からのお話のほか、実際の授業や活動を見学することができ、より学校生活の様子が伝わりました。 ・地域教育連絡協議会では、貴校の生徒さん方の様子や学校の取組を拝見させていただき、ありがとうございます。皆様と情報交換ができ、有用な機会となりました。 ・マクロからミクロを考えられると良いですね。 |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。